

□主な内容

【コロナ禍においてエコ通勤を行う意義に関する資料を制作しました】

エコモ財団ではコロナ禍においてエコ通勤を行う意義を、公共交通の維持という観点から紐といた資料を制作しました。自治体向けリーフレット／企業・事業所向けリーフレットの活用を検討されている皆様に、その導入としてご覧いただくことを想定しております。

http://www.ecomo.or.jp/environment/ecommuters/ecommuters_top.html

【日本初、衣料品の綿から製造した国産バイオジェット燃料を搭載したフライトを実施！】

JAL は、将来の国産バイオジェット燃料の実用化に向けた取り組みの一つとして、多くの国内企業の協力のもと、回収した衣料品の綿から国産技術のみで日本初の国産バイオジェット燃料を製造し、国内線定期便に初めて搭載します。

<https://press.jal.co.jp/ja/release/202101/005933.html>

□目次

1. 寄稿(1)「環境的に持続可能な交通を目指して」(第 175 回)

●「ライフサイクルで考える鉄道の環境影響評価」

【東京都市大学 環境学部 教授 伊坪 徳宏】

2. 寄稿「地方から全国に向けた情報発信！」(第 175 回)

●「新型コロナウイルス感染症禍における公共交通利用促進について」

【豊橋市 都市計画部 都市交通課 主任主事 永井 秀之】

3. ニュース／トピックス

●コロナ禍においてエコ通勤を行う意義に関する資料を制作しました【エコモ財団】

●より良い暮らしのために、あなたの「気づき」を届けてください!! ～「国土交通行政インターネットモニター」大募集～【国土交通省】

●バス・タクシー・レンタカー事業に関する補助について(ポスト・コロナ時代を見据えた地域公共交通の活性化・継続、地域公共交通維持活性化、訪日外国人旅行者受入環境整備、観光振興関係)【国土交通省】

●全国各地で環境に優しい電気バスが一層導入されます！ ～電気バス、燃料電池タクシーを活用する3事業について「地域交通グリーン化事業」による補助対象事業として支援を決定～【国土交通省】

- CO₂削減関連技術の専用ページを新たに作成しました ～新技術情報提供システム (NETIS)サイト～【国土交通省】
- ほこみちプロジェクト本格始動！ ～全国初の歩行者利便増進道路(ほこみち)が指定されました～【国土交通省】
- 令和 2 年度第 3 次補正予算「災害時にも活用可能なクリーンエネルギー自動車導入事業費補助金」等の専用ページを公開しました【経済産業省、環境省】
- 福岡県糸島エリアの移動が変わります！ ～福岡県糸島市で「MaaS」の実証実験が行われます～【九州運輸局】
- 公共交通を安心してご利用いただくために ～車両の換気性能データや交通各社の感染症対策の取組を集約～【北海道運輸局】
- 新モビリティサービス推進事業に係る要望調査について【関東運輸局】
- タクシーの事前確定運賃サービスが広島交通圏でスタートします【中国運輸局】
- 「東京都自転車通行空間整備推進計画(案)」の都民意見の募集について【東京都】
- 官民連携によるオンデマンド交通「しんゆりシャトル」実証運行をスタート ～日本版 MaaS 推進・支援事業に選定を受けた「しんゆり MaaS 実証実験」を推進～【川崎市、小田急電鉄、小田急バス、川崎交通産業、神奈中タクシー】
- Samurai MaaS:ダイナミックルーティングバス「MyRide さわやか号」の実証運行開始【会津 Samurai MaaS プロジェクト協議会、会津若松市、会津バス、みちのり HD、Via Japan】
- 【令和 3 年 2 月 1 日～3 月 31 日】MaaS アプリ「ことことなびサイクル」を活用したシェアサイクル実証実験サービス開始します【大津市、ユニシス、きゅうべえ】
- 「ゼロカーボン市区町村協議会」を設立し、脱炭素社会実現に向けた政策研究や国への提言を行います【横浜市】
- 福島県の 3 自治体と全国の 8 企業、「福島県浜通り地域における新しいモビリティを活用したまちづくり連携協定」を締結【浪江町、双葉町、南相馬市、日産自動車、フォーアールエナジー、福島日産、日産プリンス福島販売、イオン東北、日本郵便東北支社、長大、ゼンリン】
- 長野地域連携中枢都市圏 9 市町村と日産自動車、「電気自動車を活用した脱炭素社会の実現と災害対応力強化に係る連携協定」を締結【長野市、須坂市、千曲市、坂城町、小布施町、高山村、信濃町、小川村、飯綱町、日産自動車、長野日産自動車、日産プリンス長野販売】
- 三豊市粟島スマートアイランド推進プロジェクトを実施しています【三豊市】
- 「東京メトロ my!アプリ」と「東京メトロアプリ」を統合します！【東京メトロ】
- 日本初、衣料品の綿から製造した国産バイオジェット燃料を搭載したフライトを実施【JAL】
- 日立がイタリアの都市フィレンツェにて初の蓄電池駆動トラムの試験運行に成功【日立レール】
- 2021 年 3 月 21 日「モバイル Suica」をリニューアルします【JR 東日本】
- 祇園四条駅を ICT のモデル駅として駅案内ロボット「ekibo」の実証実験を行います【京阪電鉄】

- 白杖・車椅子をご利用のお客さまを IoT カメラで検知し、駅係員にリアルタイムで通知する実証試験を実施 ～より安心して鉄道をご利用いただける環境の構築に向けて～【京阪電鉄、アプリズム】
- AI 画像解析技術を活用しお客さまサポートの実証試験を開始 さらなる安全・安心の駅施設を目指して【相模鉄道、セントラル警備保障】
- JR 東日本で初めてとなる自動列車運転装置(ATO)の使用開始について【JR 東日本】
- 【関西地方初！】スマートバス停、神戸市の連節バス「ポートループ」に採用！【神姫バス、国際興業、西鉄エムテック、YE DIGITAL】
- WILLER がニューノーマルに対応した自動運転サービス実証実験を開始 ～コロナ禍でも安心して外出できるサービスにより、地域全体の健康増進と経済活性化を目指します～【WILLER、ST Engineering、けいはんな、ピノス】
- 横浜市内の公道で「中型自動運転バスの実証実験」を 2 月 9 日(火)～3 月 5 日(金)に実施 ～最先端の技術により自動運転バス実用化の可能性を検証します～【神奈川中央交通】
- 国内初！大型電気自動運転バスによる従業員移動の試験運用を羽田で実施 ～2021 年内の旅客輸送の試験運用および 2025 年における無人自動運転の実用化をめざします～【ANA、BOLDLY、先進モビリティ、BYD】
- バス車内で快適テレワーク！シェアオフィスバス「Satellite Biz Liner」を実証運行します【東急バス】
- 福山通運株式会社専用ブロックトレイン「福山レールエクスプレス号」の運転開始について【福山通運、JR 貨物】
- 混載ブロックトレインの運転開始について【西濃運輸、日本 FL、JR 貨物】
- 『トラックカーナビ』大型車の巡回実績を考慮したルート案内が可能に【ナビタイム】
- 三菱自動車、100 の自治体と災害時協力協定を締結 ～「DENDO コミュニティサポートプログラム」特設サイトをオープン、PHEV の有用性を発信～【三菱自動車】
- 体験型モビリティで島を自由に巡る「密」を避けた新しい時代の旅のカタチ 小豆島観光資源の最大活用化事業『バンライフ』の実証実験を 2 月 13 日(土)から実施 ノマド型観光モニター募集開始【小豆島ブランド推進委員会、AKIND、JR 西日本コミュニケーションズ】
- 京急電鉄と Carstay、『モバイル・オフィス』利用の実証実験を実施“動くオフィス”を京急沿線の横浜市南部エリアに設置、在宅勤務者や学生へ空間提供【京急電鉄、Carstay】
- 日本初『自転車 NAVITIME』が多言語に対応！【ナビタイム】
- フランス政府、自家用車の環境性能比較サイト更新版を公開【フランス環境移行庁】

4. イベント情報

- SDGs ローカルツアー2021【2021/2/26ー3/22】
- 《2020 公共交通シンポジウム》アフターコロナの地域公共交通 ～人々の豊かな暮らしを支える基盤として機能し続けるために～【2021/3/3】
- 令和 2 年度ローカル SDGs ユース・ダイアログ【2021/3/7ー3/21】

- MaaS Meeting 2021【2021/3/9】
- 第5回交通運輸技術フォーラム ～コロナ禍における交通運輸技術～【2021/3/9】
- スマートモビリティチャレンジシンポジウム in 関西【2021/3/9】
- JCOMM モビリティ・セミナー「アフター宣言解除：まちと暮らしのひらき方」【2021/3/9】
- サプライチェーン・アジア・サミット 2021【2021/3/11】
- とうほくスマートモビリティシンポジウム【2021/3/16】

5. その他

- 「グリーン経営認証」に関する情報は、専用ホームページへ
- エコ通勤優良事業所を認証登録しています！
- 交通環境学習(モビリティ・マネジメント教育)メールマガジンを発行しています！
- 電動小型低速車に関する情報を掲載しています！
- 「運輸・交通と環境」を発行しています！
- 記事募集中！

1. 寄稿(1)「環境的に持続可能な交通を目指して」(第 175 回)

●「ライフサイクルで考える鉄道の環境影響評価」

【東京都市大学 環境学部 教授 伊坪 徳宏】

2050 年温室効果ガスの実質排出ゼロが表明されたことを受けて、あらゆる業界で脱炭素に向けた開発が脚光を浴びている。温室効果ガスをはじめとした環境影響の削減には、有限な費用と資産を有効に活用しながら最大の効果を得るための施策が求められる。戦略を得るための情報源として、ライフサイクルアセスメント(LCA)が注目されている。LCA は原材料の入手から調達、輸送、生産、販売、使用、回収、リサイクル・廃棄に至るまでのすべてのライフサイクルを網羅した環境影響を定量的に分析する方法である。日本では製造業を中心に利用されてきたが、最近ではアップル、グーグル、アマゾンといった IT 大手がサプライチェーン全体の温室効果ガス排出ゼロを実現するための切り札として積極的に活用している。欧州や中国においてもライフサイクル規制をはじめとした政策活用のための検討が進められている。

鉄道分野においては、LCA の評価事例は数多くある。一般的には運行段階における環境負荷が大きいという傾向があるが、都市域での建設や郊外における利用条件によっては社会インフラにおける環境負荷量がむしろ大きい、という評価例もみられる。欧州ではメタ分析を行い、高速鉄道や貨物、メトロ、といった類型ごとに分析を行ったものもあり、交通政策の重要な情報として活用されている。今後当該分野で検討すべき事項は、マルチクライテリアに関する議論であろう。鉄道分野は運用時のエネルギーと橋梁や駅など構造物の両側面があるため、気候変動のみでなく、資源循環、土地開発を含む生態系影響、自家発電による大気汚染や廃棄物など、複数の影響と複雑に関係している。これらの影響を包括的にとらえて環境影響を効果的に削減するための施策が重要となる。

地球上における人工物の総重量は 20 年ごとに倍増しており、2020 年にバイオマス(植物や動物、菌類等まで含む)総重量を超えた、という論文が公開された。人工物の大半はセメントや砂利等の構造材に利用される材料であり、鉄道は大きく関連する。世界の持続可能性を追求するためにも鉄道分野の国際支援は欠かせない。各国の環境条件を反映した環境評価に基づく最善な意思決定を各国に促すための評価と情報開示がいま求められる。

2. 寄稿「地方から全国に向けた情報発信！」(第 175 回)

●「新型コロナウイルス感染症禍における公共交通利用促進について」

【豊橋市 都市計画部 都市交通課 主任主事 永井 秀之】

新型コロナウイルス感染症は未だ終息の目途がたたないところである。2020 年 4 月から 5 月にかけて全国を対象に「緊急事態宣言」が発出され、2021 年 1 月から 3 月にかけて一部の都府県を対象に再度「緊急事態宣言」が発出されている。

このような状況下においても、公共交通は生活インフラとして重要な役割を担っており一定の運行継続を求められているが、外出の自粛要請や心理的な不安感などにより利用者は減少し、交通事業者の経営状況は大変厳しいものになっている。そこで本市では、市民が少しでも公共交通の利用を再開できるようにするため、市民の公共交通に対する心理的な不安感を和らげる取組みを「公共交通が安心安全に利用できることの周知」と「公共交通を利用するきっかけ作り」という 2 つの視点から進めている。

「公共交通が安心安全に利用できることの周知」では、市民が安心して公共交通に乗るための工夫を紹介した「新しい生活様式での公共交通の乗り方案内 4 カ条(①利用時間の工夫、②目、鼻、口は触らない、③マスクで咳エチケット、④手洗い)」(以下、4 カ条という。)を作成した。まず 4 カ条を周知するための動画を作成し、本市のホームページや庁内ではもちろんのこと、豊橋駅改札口前等のデジタルサイネージで放映(2020 年 9 月～)した。また、静止画を豊橋駅のバスセンターやバス停で掲出(2020 年 8 月～)したほか、4 カ条の名入れをしたウェットティッシュを配布(2020 年 10 月～12 月)した。その他にも新型コロナウイルス感染症禍の前と今での公共交通の乗り方の違いを、間違い探しのような形で周知するチラシを作成し、4 カ条とともに本市広報紙と同時配布(2020 年 9 月)等を行った。

次に「公共交通を利用するきっかけ作り」では、周知の次の段階として実際に公共交通を利用してもらうための様々な企画・イベントを実施した。具体例をいくつか挙げると、電車やバスを利用した謎解きゲームの実施(2020 年 9 月～11 月)、電車やバス利用したウォーキングイベントの実施(2020 年 10 月～12 月)、本市が主催するイベントに公共交通で来場した人に対する特典の付与(2020 年 9 月～11 月)等を行った。また、企画・イベントを周知するためのチラシを作成し、新聞折り込みを行った。

その結果、企画・イベントによる公共交通の利用者数は 2,000 人を超え、「周知」と「きっかけ作り」の両輪がうまくかみ合ったと考えている。

新型コロナウイルス感染症禍において公共交通を維持していくためには、公共交通が安心して利用できることを多くの市民に知ってもらうことと、実際に公共交通を利用するきっかけや仕組み作りを交通事業者と行政が一体となって進めていくことが重要である。引き続き効果的な周知方法を模索していくとともに、新型コロナウイルス感染症の動向を注視しながら、利用促進も併せて行っていきたい。

3. ニュース／トピックス

●コロナ禍においてエコ通勤を行う意義に関する資料を制作しました【エコモ財団】

エコモ財団ではコロナ禍においてエコ通勤を行う意義を、公共交通の維持という観点から紐といた資料を制作しました。自治体向けリーフレット／企業・事業所向けリーフレットの活用を検討されている皆様に、その導入としてご覧いただくことを想定しております。是非、併せてご覧ください。

http://www.ecomo.or.jp/environment/ecommuters/ecommuters_top.html

●より良い暮らしのために、あなたの「気づき」を届けてください!! ～「国土交通行政インターネットモニター」大募集～【国土交通省】

国土交通省では、広く国民の意見を聴き、国土交通行政に反映させることを目的として、2020年度「国土交通行政インターネットモニター」を募集しています。より良い暮らしをつくるため、世界が訪れたい日本をつくるため、「国土交通省にできること、国土交通省がすべきこと」を再確認するため、暮らしの中での気づきや声を3月6日まで募集しています。

https://www.mlit.go.jp/report/press/kanbo01_hh_000169.html

●バス・タクシー・レンタカー事業に関する補助について(ポスト・コロナ時代を見据えた地域公共交通の活性化・継続、地域公共交通維持活性化、訪日外国人旅行者受入環境整備、観光振興関係)【国土交通省】

国土交通省は、バス・タクシー・レンタカー事業者が、以下の目的のもと、車両導入、施設整備等を進める際の取り組みを支援(導入経費等費用の一部を補助)します。

- ・ポスト・コロナ時代を見据えた地域公共交通の活性化・継続
- ・地域公共交通維持活性化(バリアフリー化、利用環境の改善)
- ・訪日外国人旅行者受入環境整備
- ・観光振興(公共交通利用環境の革新)

https://www.mlit.go.jp/jidosha/jidosha_fr3_000029.html

●全国各地で環境に優しい電気バスが一層導入されます！ ～電気バス、燃料電池タクシーを活用する3事業について「地域交通グリーン化事業」による補助対象事業として支援を決定～【国土交通省】

環境に優しい交通サービスの普及を促進するため、国土交通省では、「地域交通グリーン化事業」による補助対象事業として、新たに3事業への支援を決定しました。これにより、新たに電気バス6台と燃料電池タクシー1台が導入されます。

https://www.mlit.go.jp/report/press/jidosha07_hh_000361.html

●CO₂削減関連技術の専用ページを新たに作成しました ～新技術情報提供システム (NETIS)サイト～【国土交通省】

国土交通省では、新技術の活用促進のため、公共工事の受発注者に対し、民間企業等が技術開発した新技術に係る情報の提供等を行うことを目的としたデータベースシステムである「新技術情報提供システム(NETIS:ネティス)」をWEB サイトにおいて公開しています。

2050年のカーボンニュートラルの実現に向けた取組みの一環として、NETISに登録された新技術のうち、CO₂削減関連の技術を誰もがすぐわかるようCO₂削減関連技術の専用ページを新たに作成しました。

https://www.mlit.go.jp/report/press/kanbo08_hh_000769.html

●ほこみちプロジェクト本格始動！ ～全国初の歩行者利便増進道路(ほこみち)が指定されました～【国土交通省】

賑わいのある道路空間創出のため、全国で初めて、御堂筋(大阪市)、三宮中央通り(神戸市)及び大手前通り(姫路市)が歩行者利便増進道路に指定されました。

https://www.mlit.go.jp/report/press/road01_hh_001413.html

●令和2年度第3次補正予算「災害時にも活用可能なクリーンエネルギー自動車導入事業費補助金」等の専用ページを公開しました【経済産業省、環境省】

経済産業省と環境省は、1月28日に成立した令和2年度第3次補正予算の「災害時にも活用可能なクリーンエネルギー自動車導入事業費補助金」の専用ページを公開しました。

経済産業省では、「電気自動車・燃料電池自動車等」と、「充放電設備/外部給電器」をセットで導入する個人を支援します。

環境省では、「再エネ100%電力調達」すること等を前提に、「電気自動車・燃料電池自動車等」を購入する、個人、民間事業者(中小企業)及び地方公共団体等を支援します。

<https://www.meti.go.jp/press/2020/02/20210215003/20210215003.html>

●福岡県糸島エリアの移動が変わります！ ～福岡県糸島市で「MaaS」の実証実験が行われます～【九州運輸局】

福岡県糸島市及びその近郊において、2月19日よりMaaSの実証実験が開始されます。本実証実験は国土交通省による「日本版MaaS推進・支援事業」を活用したもので、新型コロナウイルス感染症への対策も盛り込んだ内容となっています。

国土交通省では、スマホアプリ等を用いて、出発地から目的地までの移動ニーズに対して最適な移動手段をシームレスに提供するなど、移動を単なる手段としてではなく、利用者にとっての一元的なサービスとして捉えるMaaSに関する取組の普及を推進しています。MaaSの普及により、地域や観光地における移動手段の確保・充実や公共交通機関の維持・活性化だけでなく、地域課題そのものの解決に寄与することを目指しています。

本年度は、「日本版 MaaS 推進・支援事業」により全国で 38 事業が実施しており、九州では福岡県糸島市と宮崎県宮崎市・日南市において実証実験を行います。

https://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/press/00001_00423.html

●公共交通を安心してご利用いただくために ～車両の換気性能データや交通各社の感染症対策の取組を集約～【北海道運輸局】

北海道運輸局は、公共交通事業者の協力のもと、バス・タクシー・鉄道車両の換気性能に関する情報や各社が実施している感染症対策を取りまとめ、北海道運輸局ウェブサイトに掲載しました。

https://www.tb.mlit.go.jp/hokkaido/press/presspdf/202101/20210126_1.pdf

●新モビリティサービス推進事業に係る要望調査について【関東運輸局】

新モビリティサービス推進事業（令和 2 年度補正予算（第 3 号））の執行に必要なため、要望調査を実施します。

（一般乗合旅客自動車運送事業者に係るもの）

<https://www.tb.mlit.go.jp/kanto/content/000230574.pdf>

（タクシー事業者に係るもの）

<https://www.tb.mlit.go.jp/kanto/content/000230516.pdf>

●タクシーの事前確定運賃サービスが広島交通圏でスタートします【中国運輸局】

中国運輸局は広島交通圏の事前確定運賃について、2021 年 2 月 3 日付けで認可し、3 月 1 日開始予定です。この認可により、中国・四国・九州地方では初めてとなるタクシーの事前確定運賃サービスがスタートします。

配車アプリを活用して、タクシーに乗車する前に運賃が確定することにより、「渋滞や回り道等により運賃が高くなるかもしれない」「到着するまでメーターが気になる」というタクシー運賃に関する不安がなくなり、タクシーが利用しやすくなります。また、訪日外国人にとっても、事前に運賃を確定させて予約ができるようになり、タクシーを利用して円滑かつ安心な旅行ができるようになります。

https://www.tb.mlit.go.jp/chugoku/00001_00908.html

●「東京都自転車通行空間整備推進計画（案）」の都民意見の募集について【東京都】

自転車は通勤・通学や買物、サイクリングなど広く都民に利用される身近な交通手段となっており、東京都内の自転車保有台数は全国で最も多くなっています。

一方、都内の全ての交通事故に占める自転車関連事故の割合は、全国平均と比べて高い状況となっており、コロナ禍に伴う外出自粛等による宅配需要の高まりや 3 密を避けた新しい日常に対応した交通手段として自転車利用が増加する中、安全で快適な自転車通行空間の整備が重要です。

東京都は、現計画に続く計画として、「東京都自転車通行空間整備推進計画」を策定するに当たり、都民の意見を3月13日まで募集しています。

<https://www.metro.tokyo.lg.jp/tosei/hodohappyo/press/2021/02/12/12.html>

●官民連携によるオンデマンド交通「しんゆりシャトル」実証運行をスタート ～日本版 MaaS 推進・支援事業に選定を受けた「しんゆり MaaS 実証実験」を推進～【川崎市、小田急電鉄、小田急バス、川崎交通産業、神奈中タクシー】

川崎市と小田急電鉄株式会社では、駅を中心としたまちづくりや公共交通機能の強化等に関する小田急沿線まちづくりに連携して取り組んでいます。

小田急バス株式会社、川崎交通産業株式会社、神奈中タクシー株式会社と連携し、2月17日から5月16日まで、小田急線新百合ヶ丘駅周辺においてオンデマンド交通「しんゆりシャトル」を実証運行します。

<https://www.odakyu.jp/news/o5oaa1000001vqn9-att/o5oaa1000001vqng.pdf>

●Samurai MaaS:ダイナミックルーティングバス「MyRide さわやか号」の実証運行開始【会津 Samurai MaaS プロジェクト協議会、会津若松市、会津バス、みちのり HD、Via Japan】

会津 Samurai MaaS プロジェクト協議会及び会津若松市、会津乗合自動車株式会社、株式会社みちのりホールディングス、Via Mobility Japan 株式会社は2月15日より、会津若松市の金川町・田園町周辺および市役所・AiCT 周辺を運行エリアとしたダイナミックルーティングバス「MyRide さわやか号」の実証実験を開始しました。

会津若松市及び会津バスでは金川町・田園町住民コミュニティバス運営協議会と連携し、2014年より、住民コミュニティバス「さわやか号」を運行してきました。今回の実証運行は現状の定時・定路線の運行で満たしきれない移動需要への対応及び需要創造、そしてダイナミックルーティングシステムの運行効率化効果を検証するものです。さらに、同システムのより広範囲での導入についてもあわせて検証します。

https://www.michinori.co.jp/pdf/20210212_PR_aizu.pdf

●【令和3年2月1日～3月31日】MaaS アプリ「ことことなびサイクル」を活用したシェアサイクル実証実験サービス開始します【大津市、ユニシス、きゅうべえ】

大津市、日本ユニシス株式会社、及び株式会社きゅうべえは、MaaS アプリ「ことことなびサイクル」を活用した乗り捨て型レンタサイクルの実証実験を2月1日から開始しました。

「ことことなびサイクル」は、シェアサイクルが1日乗り放題となるデジタルチケットの発売に加えて、観光案内や飲食店・観光施設などで利用できるクーポンなどを提供し、with コロナにおいても「安心・安全」な市内観光を提案することで観光客誘致と地域消費を促し、市民の通勤や通学等生活の足としても利用されることで、公共交通の補完やラストワンマイルの解消を目指します。

<https://www.city.otsu.lg.jp/kanko/annai/service/38596.html>

●「ゼロカーボン市区町村協議会」を設立し、脱炭素社会実現に向けた政策研究や国への提言を行います【横浜市】

政府は昨年末、国と地方との連携を一層強化し、2050年までの脱炭素化に向けた取組を加速させるため、「国・地方脱炭素実現会議」を設置し、横浜市は構成員として参加しています。

国に先駆けて「Zero Carbon Yokohama」の実現を宣言した横浜市が、2050年二酸化炭素排出実質ゼロを表明している全国の市区町村に呼びかけ、脱炭素社会の実現に向けた政策研究や国に提言を行うことを目的に「ゼロカーボン市区町村協議会」を設立しました。

今後、市は、会長都市として本協議会のとりまとめを行うとともに、本市が出席する「国・地方脱炭素実現会議」等において、ゼロカーボン市区町村の意見を発信します。

https://www.city.yokohama.lg.jp/city-info/koho-kocho/press/ondan/2020/press0205.files/0003_20210205.pdf

●福島県の3自治体と全国の8企業、「福島県浜通り地域における新しいモビリティを活用したまちづくり連携協定」を締結【浪江町、双葉町、南相馬市、日産自動車、フォーアールエナジー、福島日産、日産プリンス福島販売、イオン東北、日本郵便東北支社、長大、ゼンリン】

浪江、双葉町、南相馬市、日産自動車株式会社、フォーアールエナジー株式会社、福島日産自動車株式会社、日産プリンス福島販売株式会社、イオン東北株式会社、日本郵便株式会社東北支社、株式会社長大、株式会社ゼンリンの11者は、「福島県浜通り地域における新しいモビリティを活用したまちづくり連携協定」を締結しました。

本協定は、参画する3つの自治体と8つの企業が、東日本大震災からの復興、並びに、浪江町、双葉町、南相馬市が目指す、夢と希望のある未来の“まちづくり”において、各社が持つ資源、先進技術やノウハウを生かしながら、地域住民と共に創り上げていく、というものです。具体的には、新たな移動手段となるモビリティサービスの構築、再生可能エネルギーの活用による低炭素化の取り組みと合わせ、コミュニティの活性化と強靱化の領域においても協業し、持続可能な“まちづくり”の実現を目指します。

<https://global.nissannews.com/ja-JP/releases/release-7161d2d8cc2346976d7989759900602b-210202-01-j>

●長野地域連携中枢都市圏9市町村と日産自動車、「電気自動車を活用した脱炭素社会の実現と災害対応力強化に係る連携協定」を締結【長野市、須坂市、千曲市、坂城町、小布施町、高山村、信濃町、小川村、飯綱町、日産自動車、長野日産自動車、日産プリンス長野販売】

長野市、須坂市、千曲市、坂城町、小布施町、高山村、信濃町、小川村、飯綱町(長野地域連携中枢都市圏)と、日産自動車株式会社、ならびに長野日産自動車株式会社、及び日産プリンス長野販売株式会社の12者は、17日、「電気自動車を活用した脱炭素社会の実現と災害対応力強化に係る連携協定」を締結しました。

本協定は、長野地域連携中枢都市圏で災害を起因とする停電等が発生した際、長野地域連携中枢都市圏が指定する避難所等に、長野日産自動車および日産プリンス長野

販売の店舗に配備している電気自動車(EV)「日産リーフ」を無償で貸与するというものです。災害時においても継続して電力が供給できる体制を整え、避難所等の円滑な運営を図り、市民、町民および村民の生命及び身体の安全を守ることを目指します。

<https://global.nissannews.com/ja-JP/releases/release-90531deb71e1308a53b4a776ff0a823c-210217-01-j>

●三豊市粟島スマートアイランド推進プロジェクトを実施しています【三豊市】

三豊市では国土交通省「令和2年度スマートアイランド推進実証調査業務(三豊市)」として、グリーン・スロー・モビリティの実証運行が2月18日まで行われました。市は「グリーン・スロー・モビリティ in 粟島」のイメージ動画や、遠隔医療・ドローン配送実現に向けた実証実験の開会式(2月4日実施)の様子を公開しています。

https://www.city.mitoyo.lg.jp/kakuka/seisaku/koutsuu/1_2/6249.html

●「東京メトロ my!アプリ」と「東京メトロアプリ」を統合します！【東京メトロ】

東京地下鉄株式会社は、東京における大都市型 MaaS の取組み「my! 東京 MaaS」の一環として、2つの公式アプリを統合し、「東京メトロ my!アプリ」に一本化します。

アプリ統合にあたり、1月28日に、「東京メトロアプリ」のバージョンアップを実施しました。アプリを最新バージョンにアップデートすると、「東京メトロ my!アプリ」の名称・機能・デザインが継承され、鉄道・バス・タクシー・シェアサイクルを含むマルチモーダルな経路検索や、列車内・駅改札口の「混雑見える化」などの新機能を利用できるようになります。

https://www.tokyometro.jp/news/images_h/metroNews210126_03.pdf

●日本初、衣料品の綿から製造した国産バイオジェット燃料を搭載したフライトを実施【JAL】

日本航空株式会社は、将来の国産バイオジェット燃料の実用化に向けた取り組みの一つとして、多くの国内企業の協力のもと、回収した衣料品の綿から国産技術のみで日本初の国産バイオジェット燃料を製造し、国際的な燃料規格(ASTM D7566)の適合検査、および品質検査に合格した当該燃料を、国内線定期便に初めて搭載します。

<https://press.jal.co.jp/ja/release/202101/005933.html>

●日立がイタリアの都市フィレンツェにて初の蓄電池駆動トラムの試験運行に成功【日立レール】

株式会社日立製作所の鉄道システム事業におけるグループ会社である日立レール(イタリア)社は、イタリア共和国の中部に位置する都市フィレンツェにて初の蓄電池駆動トラムの試験運行に成功しました。本試験運行の成功は、蓄電池を搭載した鉄道車両の世界市場への展開に向けた重要な一歩となります。

<https://www.hitachi.co.jp/New/cnews/month/2021/02/0202.html>

●2021年3月21日「モバイル Suica」をリニューアルします【JR 東日本】

東日本旅客鉄道株式会社は、3月21日に「モバイル Suica」のサービスをリニューアルします。Android 版アプリをスマートフォン向けにリニューアルし、「おサイフケータイアプリ」との連携によりモバイル PASMO との使い分けを可能にするほか、端末の変更手続きもシンプルにするなど利便性を向上させます。

https://www.jreast.co.jp/press/2020/20210210_ho01.pdf

● 祇園四条駅を ICT のモデル駅として駅案内ロボット「ekibo」の実証実験を行います【京阪電鉄】

京阪電気鉄道株式会社では、対話型の駅案内ロボットを祇園四条駅に設置し、実証実験を実施します。駅利用者に対し、駅案内ロボットでの案内の有効性などを検証します。

https://www.keihan.co.jp/corporate/release/upload/2021-02-16_ekibo.pdf

● 白杖・車椅子をご利用のお客さまを IoT カメラで検知し、駅係員にリアルタイムで通知する実証試験を実施 ～より安心して鉄道をご利用いただける環境の構築に向けて～【京阪電鉄、アプリズム】

京阪電気鉄道株式会社および株式会社アプリズムは、鉄道の駅の改札において白杖および車椅子を利用の旅客を IoT カメラで検知し、駅係員にリアルタイムで通知する実証実験を、2021年2月19日から4月末まで実施しています。

https://www.keihan.co.jp/corporate/release/upload/2021-02-16_IoT%20camera.pdf

● AI 画像解析技術を活用しお客さまサポートの実証試験を開始 さらなる安全・安心の駅施設を目指して【相模鉄道、セントラル警備保障】

相鉄グループの相模鉄道株式会社では、2021年2月16日から28日までの期間、相鉄線二俣川駅において、AI 画像解析技術を活用した旅客サポートの実証試験が行われました。

実証試験は、セントラル警備保障株式会社(CSP)と共同で行われました。同社が提供する「VACS システム」を活用した防犯カメラシステムにより、身体の不自由な旅客を検知し、検知情報を CSP 監視員の目で確認し、その情報を駅係員に通知、サポートを行います。実証試験終了後は、効果や課題を分析し、本格導入を検討していきます。

<https://cdn.sotetsu.co.jp/media/2021/pressrelease/pdf/r21-18-ru6.pdf>

● JR 東日本で初めてとなる自動列車運転装置(ATO)の使用開始について【JR 東日本】

東日本旅客鉄道株式会社では、鉄道の質的な変革の取組みとして「サービス」や「安全」、「保守」、「運行」、「環境」など様々な側面からスマートレインを実現することを目指しています。その一環として、3月13日から、常磐線にて JR 東日本初の自動列車運転装置(ATO)を順次使用開始します。ATO の導入および今後のホームドア整備により、常磐線のさらなる輸送の安全・安定性向上を図ります。

https://www.jreast.co.jp/press/2020/tokyo/20210216_t01.pdf

●【関西地方初！】スマートバス停、神戸市の連節バス「ポートループ」に採用！【神姫バス、国際興業、西鉄エムテック、YE DIGITAL】

神姫バス株式会社は、株式会社 YE DIGITALと西鉄エム・テック株式会社が共同開発したスマートバス停、及び、国際興業株式会社が運営管理するバスロケーションシステムを、4月1日より、連節バス「ポートループ」のバス停のうち、4箇所において運用を開始します。神姫バス株式会社へのスマートバス停導入は、関西地方で初めてとなります。

<https://www.ye-digital.com/jp/news/detail.php?id=202&year=2021>

●WILLERがニューノーマルに対応した自動運転サービス実証実験を開始 ～コロナ禍でも安心して外出できるサービスにより、地域全体の健康増進と経済活性化を目指します～【WILLER、ST Engineering、けいはんな、ピノス】

WILLER株式会社とST Engineering、株式会社けいはんな、株式会社ピノスは、京都府と精華町の協力のもと、公益財団法人関西文化学術研究都市推進機構が推進するK-PEP(けいはんな公道走行実証実験プラットフォーム)を活用し、関西文化学術研究都市の公道において、2月13日～19日までニューノーマルに対応した自動運転サービス実証実験を実施しました。

https://www.willer.co.jp/news/press/2021/0205_4330

●横浜市内の公道で「中型自動運転バスの実証実験」を2月9日(火)～3月5日(金)に実施 ～最先端の技術により自動運転バス実用化の可能性を検証します～【神奈川中央交通】

神奈川中央交通株式会社は、2月9日から3月5日まで、横浜市栄区において中型自動運転バスの実証実験を実施しています。本実証実験は、経済産業省・国土交通省の事業を受託した国立研究開発法人産業技術総合研究所より神奈川中央交通株式会社がバス運行事業者に選定され実施するもので、自動運転バス実用化に必要な技術や事業環境等の整備を目的として、最先端技術の検証と地域内移動手段の可能性に関する調査を行います。

<http://www.kanachu.co.jp/news/pdf01/somu/2021/02.01release.pdf>

●国内初！大型電気自動運転バスによる従業員移動の試験運用を羽田で実施 ～2021年内の旅客輸送の試験運用および2025年における無人自動運転の実用化をめざします～【ANA、BOLDLY、先進モビリティ、BYD】

全日本空輸株式会社は、BOLDLY株式会社、先進モビリティ株式会社、ビーワイディージャパン株式会社の協力のもと、羽田空港の制限区域内において、国内初となる実際のオペレーションに従事する従業員の制限区域内の移動用として、大型電気自動運転バスの試験運用(自動運転レベル3相当)を実施しました。

ANA グループでは、「人と技術の融合・役割分担の見直し」を通じた Simple&Smart な空港オペレーションを実現すべく、航空分野におけるイノベーションを推進しており、電気自動運転バスの実用化に向けては、2018 年から羽田空港において実証実験を重ねてきました。

本試験運用では、国土交通省が自動走行用に試験的に作成した高精度 3 次元地図を使用し、走行の安定性を向上させることに加え、遠隔制御性、操作対応性など、他の空港内交通への影響を含めて、様々な観点から安全性をはじめとした運用面での検証を行い、今後に向けた課題整理や具体的な業務設計につなげていきます。

<https://www.anahd.co.jp/group/pr/202102/20210201.html>

●バス車内で快適テレワーク！シェアオフィスバス「Satellite Biz Liner」を実証運行します【東急バス】

東急バス株式会社では、2 月 16 日より「市が尾駅・たまプラーザ駅～渋谷駅・東京駅」を結ぶシェアオフィスバス「Satellite Biz Liner」を実証運行を開始しました。「Satellite Biz Liner」は、バス車内で仕事をしながら目的地まで過ごす「動くシェアオフィス」をコンセプトとした新しい移動手段です。

車内では Wi-Fi・化粧室のほか、株式会社ウェブシャークが展開する Yogibo の「Traybo2.0」を用意しており、快適なテレワーク環境を提供します。東急株式会社が実験中の「DENTO」サービスからチケットを購入した乗客には、運賃の割引や特別価格で購入できるコーヒーのサービスがあります。また、車内は感染防止対策を徹底しています。

<https://www.tokyubus.co.jp/news/002340.html>

●福山通運株式会社専用ブロックトレイン「福山レールエクスプレス号」の運転開始について【福山通運、JR 貨物】

福山通運株式会社および日本貨物鉄道株式会社は、安治川口駅と盛岡貨物ターミナル駅間で、積合せ貨物を輸送する専用ブロックトレイン「福山レールエクスプレス号」の運転を開始することとなりました。「福山レールエクスプレス号」の運転は 4 往復目となります。

https://corp.fukutsu.co.jp/upload/save_pdf/1613541541290.pdf

●混載ブロックトレインの運転開始について【西濃運輸、日本 FL、JR 貨物】

西濃運輸株式会社、日本フレートライナー株式会社、および日本貨物鉄道株式会社は、名古屋貨物ターミナル駅と福岡貨物ターミナル駅間で、混載ブロックトレインの運転を開始することとなりました。西濃運輸のトラックで貨物駅に持ち込まれた積合せ貨物は、日本 FL が受託人となって貨物列車に積載し、貨物駅間を JR 貨物により直行輸送します。西濃運輸の混載ブロックトレインの運転は、「カンガルーライナーSS60」につづき 2 往復目となります。

<https://www.seino.co.jp/seino/news/stc/2021/0217-01.htm>

●『トラックカーナビ』大型車の旋回実績を考慮したルート案内が可能に【ナビタイム】

株式会社ナビタイムジャパンは、2月5日より、トラックドライバー専用『トラックカーナビ』にて、大型車の旋回実績を考慮したルート検索に対応しました。旋回実績は、『トラックカーナビ』アプリのユーザーから取得された過去6ヵ月分の走行実績を活用し、トラックが旋回可能な曲がり角のデータを抽出して作成しています。車両の大きさ(車長・車幅)や通過ユニークユーザー数などから、内輪差、外輪差まで計算して導き出し、旋回できるかを判定したうえで、通れるルートを表示します。旋回実績に対応したルートは、ルート検索の「推奨」「無料優先」等すべての優先条件に適用されるため、ユーザーは特別な操作なく利用が可能です。

https://corporate.navitime.co.jp/topics/pr/202102/05_5327.html

●三菱自動車、100の自治体と災害時協力協定を締結 ～「DENDO コミュニティサポートプログラム」特設サイトをオープン、PHEVの有用性を発信～【三菱自動車】

三菱自動車工業株式会社は、災害発生時に電動車を被災地・避難所へ速やかに届けることを目的に全国の自治体と災害時協力協定の締結を目指す「DENDO コミュニティサポートプログラム」を推進し、締結自治体数は100に達しました。これを機に、特設Webサイトを開設し、給電機能など災害時に活用できる特徴を備えた電動車の有用性を広く発信することで、より多くの自治体との協定締結につなげ、被災地への電動車出動体制を強化します。

<https://www.mitsubishi-motors.com/jp/newsrelease/2021/detail5504.html>

●体験型モビリティで島を自由に巡る「密」を避けた新しい時代の旅のカタチ 小豆島観光資源の最大活用化事業『バンライフ』の実証実験を2月13日(土)から実施 ノマド型観光モニター募集開始【小豆島ブランド推進委員会、AKIND、JR西日本コミュニケーションズ】

小豆島ブランド推進委員会及び、株式会社AKIND、株式会社JR西日本コミュニケーションズは、小豆島観光資源の最大活用化事業『#VANLIFE(バンライフ)』として、小豆島の各港から「モビリティ」を観光客に貸し出し、島全域を自身の運転で自由に横断・観光するノマド型観光プログラムの実証実験を2021年2月13日～28日の期間で実施しました。

<https://www.jcomm.co.jp/news/20210208-1/>

●京急電鉄とCarstay、『モバイル・オフィス』利用の実証実験を実施“動くオフィス”を京急沿線の横浜市南部エリアに設置、在宅勤務者や学生へ空間提供【京急電鉄、Carstay】

京浜急行電鉄株式会社と、Carstay 株式会社は、横浜市南部(上大岡エリア・能見台エリア)の京浜急行電鉄株式会社所有の遊休地に、Carstay 株式会社の“動くオフィス”として利活用可能なキャンピングカー「モバイル・オフィス」をビジネスパーソンのワークスペースや学生の勉強スペースとして設置する実証実験を実施しています。

https://www.keikyu.co.jp/company/news/2020/20210216HP_20150IT.html

●日本初『自転車 NAVITIME』が多言語に対応！【ナビタイム】

株式会社ナビタイムジャパンの提供する自転車専用ナビゲーションアプリ『自転車 NAVITIME』は、ほぼすべての機能を英語、中国語(繁体字・簡体字)で利用可能となりました。

メニュー画面、ルート検索、スポット検索、地図表示、ナビゲーション中画面を多言語で表示でき、ナビゲーション中の音声案内も、英語での発話に対応します。全国対応の自転車専用ナビゲーションアプリでの多言語対応は、日本で初めてです。

https://corporate.navitime.co.jp/topics/pr/202102/04_5325.html

●フランス政府、自家用車の環境性能比較サイト更新版を公開【フランス環境移行庁】

フランス環境移行庁(ADEME)は、国内で新規に販売される自家用車の環境性能比較ウェブサイト「カー・ラベリング」の更新版を公開しました。このサイトは消費者が情報に基づいて購入を決定できるよう、新規登録車の環境データ(燃料消費量、航続距離、CO₂と汚染物質の排出量等)のほか、実施中の税措置(低排出車の購入を補助し高排出車に課金するボーナス・マルス制度、買い替え補助金等)の情報も掲載しています。更新版では2020年7月に導入された新燃費基準 WLTP での推定値が加えられました。フランスの2020年1~10月の新車販売台数は全体では減少していますが、電気自動車とハイブリッド車の合計は2019年の7.6%から19.8%に増加し、平均CO₂排出量も2019年の112 g CO₂/kmから98.1 g CO₂/kmに改善し、欧州委員会が定めた2020年目標値95 g CO₂/kmに近づきつつあります。一方、ディーゼル車とガソリン車の販売は減少したものの市場に占める比率は依然として大きい状況です。

<https://presse.ademe.fr/wp-content/uploads/2021/01/CP-ADEME-Carlabelling-11012021.pdf>

4. イベント情報

●SDGs ローカルツアー2021

日時・場所:現地開催、オンライン開催 18:40～21:00

- 1 2021年2月26日(金)徳島県上勝町 上勝町ゼロ・ウエストセンター(WHY)
- 2 2021年3月1日(月)岐阜県各務原市 KAKAMIGAHARA STAND
- 3 2021年3月8日(月)広島県呉市 乙女座
- 4 2021年3月9日(火)秋田県秋田市 亀の町ストア
- 5 2021年3月11日(木)奈良県山辺郡 ume,yamazoe
- 6 2021年3月12日(金)宮崎県児湯郡 チャレンジフィールド
- 7 2021年3月15日(月)静岡県三島市 みしま未来研究所
- 8 2021年3月19日(金)北海道釧路市 阿寒・釧路ゲストハウス コケッココー
- 9 2021年3月22日(月)東京都千代田区 SAAI Wonder Working Community

主催:環境省

<http://www.env.go.jp/press/109121.html>

●《2020 公共交通シンポジウム》アフターコロナの地域公共交通 ～人々の豊かな暮らしを支える基盤として機能し続けるために～

日時:2021年3月3日(水)14:30～17:00

場所:オンライン開催

主催:国土交通省関東運輸局

<https://www.tb.mlit.go.jp/kanto/content/000230638.pdf>

●令和2年度ローカル SDGs ユース・ダイアログ

日時・場所:

DAY1:2021年3月7日(日)13:00～16:30 オンライン開催

DAY2:2021年3月13日(土)10:30～17:00 岡山会場セントラルフォレスト

2021年3月14日(日)10:30～17:00 滋賀会場 ピアザ淡海207会議室.

DAY3:2021年3月21日(日)13:00～17:00 オンライン開催

主催:環境省

<http://www.env.go.jp/press/109120.html>

●MaaS Meeting 2021

日時:2021年3月9日(火)12:00～17:30

場所:けいはんなプラザ メインホール、オンライン開催

主催:WILLER 株式会社

https://www.willer.co.jp/news/press/2021/0209_4339

●第5回交通運輸技術フォーラム ～コロナ禍における交通運輸技術～

日時:2021年3月9日(火)13:30～16:30

場所:オンライン開催

主催:国土交通省

https://www.mlit.go.jp/report/press/sogo17_hh_000105.html

●スマートモビリティチャレンジシンポジウム in 関西

日時:2021年3月9日(火)14:10～16:10

場所:けいはんなプラザ、オンライン開催

主催:経済産業省近畿経済産業局、国土交通省近畿運輸局

<https://www.tb.mlit.go.jp/kinki/content/2pdf21-128.pdf>

●JCOMM モビリティ・セミナー「アフター宣言解除:まちと暮らしのひらき方」

日時:2021年3月9日(火)19:00～(最大2時間程度)

場所:オンライン開催

主催:日本モビリティ・マネジメント会議

<https://www.jcomm.or.jp/covid19/seminar210309/>

●サプライチェーン・アジア・サミット 2021

日時:2021年3月11日(木)15:00～17:00

場所:オンライン開催

主催:環境省地球環境局地球温暖化対策課

<http://www.env.go.jp/press/109165.html>

●とうほくスマートモビリティシンポジウム

日時:2021年3月16日(火)13:00～17:00

場所:オンライン開催

主催:経済産業省 東北経済産業局

https://www.tohoku.meti.go.jp/s_car/topics/pdf/210217.pdf

5. その他

- 「グリーン経営認証」に関する情報は、専用ホームページへ

<http://www.green-m.jp>

- エコ通勤優良事業所を認証登録しています！

http://www.ecomo.or.jp/environment/ecommuters/ecommuters_top.html

- 交通環境学習(モビリティ・マネジメント教育)メールマガジンを発行しています！

配信申込はこちらから

<http://mm-education.jp/magazine.html>

- 電動小型低速車に関する情報を掲載しています！

http://www.ecomo.or.jp/environment/nev/nev_top.html

- 「運輸・交通と環境」を発行しています！

(日本語版)

<http://www.ecomo.or.jp/environment/unyukotsutokankyou/index.html>

(英語版)

<http://www.ecomo.or.jp/english/tej.html>

- 記事募集中！

本メールマガジンへの掲載記事を募集中です。

EST、または「交通と環境」に関連する取組みや話題、催し物の案内等を事務局までお寄せください。 → E-mail: magazine@ecomor.jp(担当:熊井)

発行:環境的に持続可能な交通(EST)普及推進委員会事務局

(公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団)

配信申込、バックナンバー閲覧はこちらから

<http://www.estfukyu.jp/mailmagazine.html>

配信停止はこちらから

https://p.bmb.jp/bm/p/f/tf.php?id=mail_ecomo

EST ポータルサイト: <http://www.estfukyu.jp/>